

平成29年度 生涯学習・社会教育関係職員研修講座 センター会場

第2回社会教育編「地域活動」

平成29年10月31日(火) 会場名:青森県総合社会教育センター 第1研修室 受講者数22名

生涯学習・社会教育関係職員研修講座 センター会場 第2回社会教育編「地域活動」を実施しました。

社会教育編では、【地域活動】・【家庭教育】・【青少年教育】の分野に分けて研修講座を構成しており、第2回目は、「住民が直接関わるまちづくりの実践」をテーマに行いました。

講師に、青森県会計管理者 神 重則 氏をお招きし、「地域の願いを実現させる」その原動力と実行力について、県職員としての豊富な御経験をもとに御講義いただきました。

下北地域県民局長の時には、住民と直接関わり、地域活性化に向けての「まちおこし・人財育成・情報発信・観光振興」など、多種多様な挑戦と実践が、実績として残されていることから、今回は「地域活動」におけるヒントを得る研修講座として設定しました。

講義では、冒頭に社会教育行政に関わる職員の役割に触れ、自分自身がボーイスカウトから学んだ体験が、今の礎になっていることを話されました。

現代における地域課題を紐解きながら、下北での実践とその間出会った人たちとの交流の様子をお話くださいました。さらには、今現在も進んでいるまちづくりに関わる人たちの事例紹介など、直接関わり、直接触れ合ってきたからこそ言える実践者としての“生の声”は、受講した方々に大きな刺激を与え、“やる気”を起こさせるものでした。

午後には、演習に直接関わりそうな事例を詳しく紹介したあと、「こんなまちづくりをしたい！」をメインテーマに、「食」・「観光」・「人財育成」・「地域活動」のカテゴリーから、マインドマップの手法を用いたグループワークを行いました。

パワフルな講義で“やる気”になった受講者は、演習でも活発なグループディスカッションを交わしながら、まちづくりのモデルプランを作り上げる大変充実した研修講座となりました

1. 講義：「住民が直接関わるまちづくりの実践」 講師：神 重則 氏

地域が直面する課題として、人口減少は避けられないものであり、そこには「結婚観」も大きく関わっているということです。そして、若者の自立心を阻害しているものは、家庭教育にも起因した「見え隠れする過保護過干渉」で、“子育て”より“管理”による経験不足が自らアクションを起こせないことにつながっているとも話されています。

だからこそ、将来にわたって持続可能な地域社会を創る人財を育てなければならないとし、①自己有用感と自己肯定感に配慮して社会で生き抜く力を持った子どもたちを育成すること。②親教育によって、家庭教育の機能不全の解消をすること。③「地域のつながりへの誘導」を意識した生涯学習を目指す。というお話をされました。

《 講義の様子 》



2. 演習：「こんなまちづくりをしたい！」

演習につながる事例として、下北を取り上げた人財や資源を紹介するところから始まりました。

(1) 下北の「宝」

○天然の宝・文化的な宝…「下北ジオパーク」に概ね網羅されている。「もてなしの半島」、「祈りの半島」

(2) 住民が直接関わるまちづくり

○下北わらしランド ○下北地区子ども会郷土芸能発表会 ○ベートーヴェン第九演奏会

○下北吹奏楽団定期演奏会 ○下北かるた大会 ○下北検定 ○イカす大畑カダル団の取り組み

○花と緑のまちづくり活動を通じた地域コミュニティづくり ○むつまちゼミ・大畑まちゼミ 等々

(3) 田子町役場職員の話から

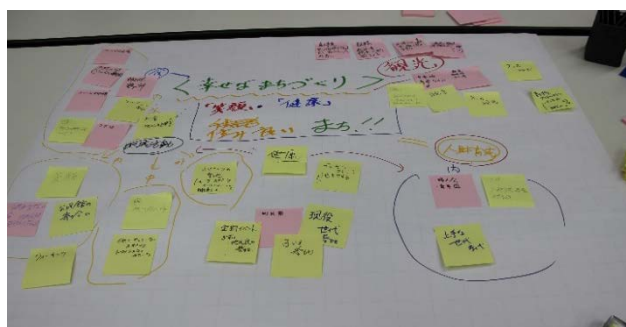
銀座でリヤカーにリンゴを積んで売り歩いた役場職員は、「今なにもしなければ10年後もなにも変わらない。田子の未来を思い、なにかしなくてはという一念でした。」と語ったという話。

地域の将来を見据えた「一歩」を踏み出していきたい。

というお話から演習へ移りました。

演習は、マインドマップの手法を用い、模造紙の真ん中に『幸せなまちづくり』と書き込むところからスタートしました。「食」・「観光」・「人財育成」・「地域活動」の 카테고리 に対し、関連するワードをポストイットに書いて貼り付けながら重要度を見ながら計画づくりをするグループワークです。最後の発表では、どのグループも『人財育成』に重点をおいたものになりました。

《 演習の様子 》



3. 受講者の感想

- ・家庭教育、学校教育、社会教育の三者のつながりが大切である。社会は一人で生きているのではなく、一人一人が認め合うことを実感した。
- ・家庭教育、結婚観など、神氏のように熱く青森の未来を考え活動している方がいることを知り、自分も積極的に地域活動に参加していこうと思いました。
- ・社会教育に関する貴重なお話をいただいた。どうすればまちづくりにつながるか改めて考えることができた。
- ・「好きになるためには知らなければいけない。知るためには地域に出なければいけない。」という言葉が印象的でした。地域の課題は何か、もっと地域を意識して仕事や生活をしていこうと思った。